

神田議員（自民議連）

令和5年9月22日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）県立高等学校の魅力向上に向けたSTEAM教育の充実について

県立高等学校の魅力向上のため、STEAM教育を更に充実させる必要があると考えるが、これまでのモデル校での実証においてどのような成果があったのか、教育長に伺う。

また、今後の普及・拡大をどのように進めていこうと考えているのか、併せて教育長の所見を伺う。

（答）

本県におきましては、STEAM型カリキュラムについて、課題の発見や解決をしていくこと、さらに社会的な価値を創造していく資質・能力を育成することを目指して、令和4年度から県立高等学校3校をモデル校とし、開発に取り組んでいるところでございます。

モデル校の1つである庄原格致高等学校では、人口の流出や産業分布などの地域の様々なデータを分析することにより、教育の視点から課題を見出し、その解決に向け、理科や家庭科などの教科を横断するプログラムを企画し、地元小学生との交流を目的とした「物理教室」を開催するなどの協働的な学びの実践を積み重ねております。

こうした取組の成果といたしましては、昨年度の県教育委員会の調査におきまして、「総合的な探究の時間で、自分で課題を立てて課題解決に必要な情報を集め、整理して調べる学習活動に取り組む生徒の割合」は、モデル校の平均が80.5パーセントであり、県平均の73.0パーセントと比較すると7.5ポイント高くなっているなど、主体的な学びの充実が図られていると考えております。

教育委員会といたしましては、モデル校の好事例などをホームページで紹介するとともに、研修などの様々な機会を通じて普及していくことにより、全ての県立高等学校の魅力向上に向け、取り組んでまいります。